

はじめに

日頃は皆さまの温かいお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、当社の経営課題への取り組み、事業概況及び財務状況等を皆さまにご案内させていただきたく、ディスクロージャー誌「三井ダイレクト損害保険の現状 2017」を作成いたしました。本書が、当社へのご理解を深めていただく上で少しでもお役に立てば幸いに存じます。

今後とも皆さまの一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

MS&AD 三井ダイレクト損保

*本誌は、保険業法第111条、当社ディスクロージャー・ポリシー等に基づいて作成した資料です。

ディスクロージャー・ポリシー

三井ダイレクト損害保険株式会社は、MS&AD インシュアランスグループディスクロージャー基本方針に則り、当社の重要情報を正確、迅速かつ公平に伝えることを目的とし、以下のとおり情報開示を行ってまいります。

1. 情報開示の基本姿勢

当社は、お客さまをはじめとする皆さまが、当社の実態を認識・判断できるように情報開示を行ってまいります。

2. 情報開示の基準

当社は、お客さまの契約判断等に資する有用情報として以下の項目について開示してまいります。

<情報開示に関する主な項目>

経営関連、商品・サービス、資産運用、資産・負債関連、リスク管理関連、業績関連、再保険、システム、社会貢献、環境取り組み

3. 情報開示の方法

当社からの情報開示は、ディスクロージャー誌、ニュースリリース、インターネットホームページ等を通じ、お客さまをはじめとする皆さまに情報が伝達されるよう配慮を行ってまいります。

Contents

ごあいさつ	2
事業の概況	3

2016 年度業績・トピックス

主要経営指標	4
トピックス	6
CSR（企業の社会的責任）の取り組み	7
MS&AD インシュアランス グループについて	8
三井ダイレクト損保の特色	13

お客様の安心のために 商品・サービスについて

ご契約の仕組み	14
事故対応サービス	16
お客様の声への取り組み	19
取り扱い商品	22
損害保険の仕組み	24

お客様の安心のために 体制・方針について

コーポレート・ガバナンス体制	25
内部統制システムに関する方針	26
ERM 経営の推進	28
リスク管理とコンプライアンス	29
反社会的勢力に対する基本方針	33
お客様第一の業務運営に関する方針	34

【資料】会社概要・業績データ

I．当社の概況	40
II．当社の主要業務に関する事項	43
III．財産の状況	51
損害保険用語の解説	61

ごあいさつ



取締役社長
船木 隆平

平素より三井ダイレクト損保をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当社は、個人向け自動車保険をインターネットや電話を通じてお引き受けするダイレクト損害保険会社として2000年6月に開業いたしました。

以来、“プロフェッショナルな事故サービス”を“納得感のある保険料で提供すること”を基本として、業容の拡大、独自のビジネスモデルを追求し続けてまいりました。

2011年からは、保険事業に関連性の高い活動として、渋滞と事故の無いクルマ社会づくりと運転マナーの向上を目指した「MUJICOLOGY! プロジェクト」を展開し、2014年7月には当社創立15周年記念事業として、お客さまの投票に応じて各団体に寄付をする「ムジコロジー・スマイル基金」を創設して、交通事故防止、環境保護、教育、復興支援に取組む各団体を応援しております。

今年度は2014年度からスタートした新・中期経営計画“Next Challenge 2017”が最終年度を迎えます。当社を取り巻く環境は、自動運転技術の普及やIoTなどの先進技術の進展により、大きく変化することが予想されますが、そのような状況であるからこそ、私たちは当社の経営理念・経営ビジョン・行動指針に立ち返り、「常にお客さまの安心と満足のために行動」し、「お客さまの期待にダイレクトにお応えすることにより、選ばれ、喜ばれ、信頼される会社」の実現にむけて努力を重ねてまいります。

世界トップ水準の保険・金融グループを目指して挑戦し続ける「MS&AD インシュアランスグループ」の一員として、企業品質と企業価値の向上に向けて引き続き具体的な取組みを推進するとともに、これからも末永くお付き合いいただける身近な保険会社を目指してまいります。

今後とも変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

経営理念 MISSION

グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、
安心と安全を提供し、
活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支えます

経営ビジョン VISION

保険事業を通じ、お客さまの期待にダイレクトにお応えすることにより、
選ばれ、喜ばれ、信頼される会社を目指します

行動指針 VALUE

お客さま第一 CUSTOMER FOCUSED

わたしたちは、常にお客さまの安心と満足のために、行動します

誠実 INTEGRITY

わたしたちは、あらゆる場面で、あらゆる人に、
誠実、親切、公平・公正に接します

チームワーク TEAMWORK

わたしたちは、お互いの個性と意見を尊重し、
知識とアイデアを共有して、ともに成長します

革新 INNOVATION

わたしたちは、ステークホルダーの声に耳を傾け、
絶えず自分の仕事を見直します

プロフェッショナリズム PROFESSIONALISM

わたしたちは、自らを磨き続け、常に高い品質のサービスを提供します

身近な安心、確かな未来。三井ダイレクト損保
～ “真” 心であなたの安心を支えます～

事業の概況（2016年度）

事業の経過及び成果等

○事業環境

わが国経済は、引き続き不透明感はあるものの、政府による経済政策や日銀による金融政策により、緩やかな回復途上であり、景気改善が期待されます。国内の自動車販売台数については、中古車・新車ともに前年同水準を堅持しておりますが、引き続き限られた国内自動車保険市場での厳しい競争が続いています。

○経営の概況

国内大手損保や通販系損保との激しい競争が続く中、当社は、認知度向上を企図したマス広告や投資効率を重視した Web 広告等による販売強化に取り組んでいます。また、顧客基盤の維持・拡大や当社ブランドの強化のため、ホームページ、Facebook、メールを活用した情報発信や安全運転啓発活動によってお客さまとのコミュニケーション強化に取り組むとともに事故対応やコールセンター対応におけるお客さま対応品質向上に努めています。

○営業の成果

保険引受収益は 37,670 百万円となり、資産運用収益 73 百万円とその他経常収益を合計した経常収益は 37,753 百万円となりました。一方、保険引受費用 30,627 百万円、営業費及び一般管理費 8,047 百万円にその他経常費用を合計した経常費用は 38,708 百万円となり、経常損失は 955 百万円となりました。これに特別損益、法人税及び住民税などを加減した当期純損失は 1,004 百万円となりました。

当社が対処すべき課題

当社は通販系損保の中でも早くからインターネット市場の将来性に着目し、独自のビジネスモデルの構築を進めてまいりました。今後とも、ハイクオリティかつローコストのオペレーションをベースとして競争を勝ち抜く企業力・成長力を維持し、以下の諸施策に集中して取り組むことによって、事業損益の一層の安定化に努めてまいります。

第一に、お客さまとのダイレクトな関係を基調とするビジネスモデルの特性と利点を考慮し、双方向のコミュニケーションを密接にとりながら、「お客さまの期待にダイレクトに応える」ことをすべての企業活動・施策の基本とします。

第二に、上記を遂行するプロセスを通じて企業品質の向上を図り、お客さまに安心と納得を提供することによってお客さまから「選ばれ、喜ばれ、信頼される」企業としての姿を実現します。

○保険引受の概況

正味収入保険料は 37,653 百万円となりました。一方、正味支払保険金は 25,745 百万円となり、損害調査費 2,822 百万円を加えて算出した正味損害率は 75.9%となりました。また、保険引受に係る営業費及び一般管理費に諸手数料及び集金費を加えて算出した正味事業費率は 22.0%となりました。これらに支払備金繰入額、責任準備金繰入額などを加減した保険引受損失は 1,003 百万円となりました。

○資産運用の概況

低金利が続く厳しい運用環境の中で、当社は引き続き安全性・流動性に配慮しつつ、安定的な収益を確保するとの基本方針に沿った資産運用に努めました。

当期末の総資産は 59,987 百万円で前期末に比べて 8,900 百万円増加しましたが、このうち運用資産は、前期末に比べて 8,796 百万円増加して 51,747 百万円となりました。運用資産のうち主なものは有価証券 39,510 百万円であります。

第三に、当社をとりまく環境変化の規模と速さに鑑み、スピーディーかつ機敏な経営判断・対応も併せて行うことにより、高い収益性・成長力の確保・維持に努め、経営基盤をさらに強化します。

第四に、経営の健全性を確保しコーポレートガバナンスを確立するため、経営者・管理者の責任の下、各部門の内部管理機能・部門間連携を十分に発揮させ、実効性の高い PDCA を継続します。

最後に、当社は上記施策を中心とした全社的取り組みを通じて当社独自のビジネスモデルを追求することにより、損保業界における確固たる地位を築くべく一層の努力を行っていく所存であります。